

ダンプ運賃上昇か？単価の適正化に寄与？

A 改正建設業法などが12日に全面施行され、関係各所で話題になっているね。

B それには及ばないものの、改正貨物自動車運送事業法に基づき、2026年4月1日から「白トラ」規制が強化されること、ひそかな話題になっている。荷主などが、白ナンバーのトラックで有償貨物運送を行う「違法な白トラ事業者」に運送委託した場合、新たに処罰の対象となる。このほか、委託次数を制限する規定なども施行される。

C 建設業関係では今のところ、特に舗装業界の反応が敏感だ。業界筋によると、アスファルト合材工場では、白ナンバーダンプが合材を現場に直送する「現着オーダー」が主流だった時代があり、高度経済成長期の旺盛な建設需要を支えた。現在、白ナンバー車両は営業許可（緑ナンバー）を有していないものの、「ダンプ表示番号」を取得して工事に従事する実態がある。割高で台数が少ない緑ナンバーよりも、割安で多数存在する白ナンバーに頼らざるを得ない中小工場もあるという。

A 規制強化によってどんな影響がありそうなの。

D 厳正な取り締まりが実施されることはもちろんだが、白ナンバーで生計を立てている高齢や零細の個人事業者は、緑ナンバーの取得要件を満たせず、業界からの退出を余儀なくされるかもしれない。工場側も現着オーダーのサービスを縮小することで、工場渡しの比率増加が予想される。緑ナンバーに依頼する必要性から、ダンプ運賃が全体的に値上がりする可能性もある。

C 合材工場にとっては、これまでの「運賃込み単価」からの脱却を図るチャンスになるかもしれない。製品単価と運賃を分離して販売できれば、運賃上昇分の転嫁が進み、価格の透明性向上と適正単価の実現に近づくと期待される。



白ナンバートラックの営業行為は違法であり、今後取り締まりが強化される

A 担い手確保を図る改正業法に話を戻すわけじゃないけれど、国土交通省九州地方整備局が職員向けに専門工事業の職種体験を行っているそうだね。

E 設計や積算、監督、契約といった実務への理解を深めるのが狙いだ。発注を担当する若手職員が鉄筋やとび・土工、型枠といった職種の仕事を実際に体験している。

C 建設産業専門団体九州地区連合会と九州整備局が22年度に開いた意見交換会で、当時の藤巻浩之局長が呼び掛けたのがきっかけ。25年度から同局の正式な研修制度に位置付けられ、2日間の日程で各専門工事業の職人に指導を受けている。

E 今回、座学の講師を務めた中村工業の中村隆元代表からは興味深い問題提起があった。現場の大型化に伴って特定の職種に対する労働需要の繁閑差が極端に拡大し、再開発や半導体、防衛関連投資が重なる27年以降に過去に例のない繁忙期が到来するという。絶対的な人手不足を経験の浅い労働者で補うことになり、労働災害のリスクが高まると警鐘を鳴らしていた。

A 08年のリーマン・ショック以降の数年間に、業界全体で採用が極端に抑制された経緯もあり、建設業の人手不足や技術継承は深刻な課題だ。

D 現在、中核を担うべき年代の技術者・技能者の層が薄い。5年、10年後には現場のリーダーとなるクラスの人材が絶対的に枯渇し、十分な経験を積まないまま管理職になるという状況が多発するとの指摘もある。

B 専門工事業者は、平時に社会資本整備を担い、災害発生時には復旧の最前線に立つ「地域の守り手」として重要な役割を果たしている。発注者が専門工事を知ること、より実態に即した判断や、より良い建設行政の推進につながることを期待したい。

実務への理解深め建設行政に生かす